

「新しい東北」官民連携推進協議会  
令和5年度 宮城県意見交換会（第2回）議事概要

令和5年9月6日  
「新しい東北」官民連携推進協議会事務局

【日 時】令和5年9月6日（水）13:00～15:00

【場 所】宮城復興局仙台支所／宮城復興局（石巻）／オンライン（Teams）

【出席者】（敬称略）

＜副代表団体＞（所属の五十音順）

株式会社七十七銀行／国立大学法人東北大学／宮城県／一般社団法人みやぎ連携復興センター／仙  
台港周辺地域賑わい創出コンソーシアム

＜復興庁＞

復興庁復興知見班／復興庁産業復興総括班／復興庁宮城復興局

＜事務局＞

株式会社 JTB 総合研究所／株式会社 JTB

【議事概要】

1 開会

復興庁より新規着任の挨拶をするとともに、今年度の取組の企画に当たって、委員の皆様から忌憚らない意見をいただきたい旨、挨拶した。

2 各団体の活動紹介

復興庁より、取組紹介資料（資料2-1～2-6）を基に、取組を紹介した。

3 令和5年度の実践の場実施に向けた検討

(1) エクスカーションプログラムの試行実施に関する意見交換

エクスカーションプログラムの試行に向けて、試行対象会議の主催者との調整状況が共有されるとともに、想定される参加者や行程案について意見交換が行われた。

今後、個別の会議の主催者等と調整を進めるほか、募集型企画旅行として実施するものについては、事務局側で日程・プログラムを調整の上、各者にも共有することとした。

(主な意見)

- ・それぞれの会議のエクスカーションプログラムについて、プログラムA・Bのどちらをベースとして調整するかというところまでは、旅行会社と会議主催者、事務局との間ではまだ議論が進んでいない。日程が決まらなると旅行会社側がそれぞれの確保、確定、手配まで至らないというところがあるため、事務局側で対象となる会議とエクスカーションプログラムの開催日程を整理しているところ。今後、受け入れ事業者側の日程の都合等も勘案しながら調整を進めていく。
- ・「募集型企画旅行」として実施するものについては、事務局側で日程・プログラムを調整の上、プログラムチラシ案を事前に準備するので、副代表団体の皆様におかれても開催について各所へご案内いただければと考えている。
- ・組織内での周知について、検討させていただきたい。宮城県内の出身者が多いため、参加者を確保

するという点では効果的ではないと考えており、その他の媒体を通じてならば、例えば SNS での紹介などはできる可能性がある。

- ・募集型企画旅行という形であれば、10月下旬に大阪で開催される「ツーリズム EXPO」の復興庁のセミナーの中で旅行会社のエージェンツ等へ案内を行うことが可能と考えている。
- ・第1回意見交換会でインバウンドの対応もしっかりしてほしいという意見があったため、日本に留学して間もない外国人を想定し、外語専門学生をターゲットに置いた試行も行いたい。通訳案内が入る形である。留学生を含めて、例えば国際交流員の方などで興味のある方がいれば、説明は全部英語になると思うが参加していただくと有難いと思う。
- ・専門学校生にプラスして、県内には外国から来ている方が他にもいらっしゃるの、そういった方々にも広めてもいいのではないかと思った。
- ・前回の会議で在仙台の支店長や支社長のグループがそれぞれ仙台にあるのではないかという話があったが、これは仙台港周辺賑わい創出コンソーシアムの話ではなく、実際の在仙台の経済界の話。そういうところでも今回のようなプログラムを使うチャンスがあるのではないかという話である。
- ・仙台港周辺賑わい創出コンソーシアムで募集をかけて行う場合は、コンソのメンバーに「今回コンソも参加してエクスカージョンプログラムを作ることによって、復興ツーリズムの端緒を付ける」と広く皆さんに知ってもらおうという方向性。日程や費用面の問題など、詳細に関してはもう少し詰めさせていただきたい。
- ・東北大学の研究集会での実施については、最初の事務局からの提案としては、1泊して翌日して解散するようなA案・B案そのままのものであったが、相当参加人数が少なくなってしまうだろうということで、調整が可能であれば午前中で研究集会は切り上げて、午後はエクスカージョンプログラムに参加したい人は参加するという形でアレンジできたらどうだろうかという形で調整をしている。初めての試みということで、東北大学内部で議論している状況である。
- ・今回の進め方として、雛形となる、たたき台となるルートができている状態で当たって行って、それについてそれぞれの会議、イベントの状況に合わせた形での変化、修正、改善の調整をしていければと思っている。半日のアレンジコースということも1つの雛形があってこそだと思っている。
- ・企業研修としての実施について、この時期というよりは例えば4月に人事異動で来たばかりの人に知っておくべきこと、自身や家族、仕事のために必要ということで開催案内を行うと、今でも意識が高い人は自分で行っているだろうが、中間的な意識の人は「機会があれば」ということだと思うので、中間的な意識の人でまだ機会に恵まれていない人が手を挙げるのではないかと思う。
- ・4月以降・人事異動後の職員向けの研修という形での実施について、今年度は宮城県におけるエクスカージョンプログラムを作ろうということで協議会として取り組んでいるところだが、ツアーが出来上がった暁には、旅行会社サイドでしっかりと実装につなげていただくことが必要なのではないか。協議会単独でやりっぱなしで終わってしまうと意味がないものになってしまうため、旅行会社としての自発的な取組にも期待したい。

## (2) 実践の場の企画案についての対案や改善点等

事務局が示した今年度の企画案（フォーラムの開催）について意見交換が行われ、事務局案で調整を進めることに合意が得られた。

意見交換の中では、来年度以降のプログラムの自走を考えた場合にスルーガイドの育成をどうしていくかを考えるべきではないか、若者を巻き込んだ取り組みを次につなげていくことが必要ではない

か、フォーラムの招待者として東北運輸局や東北復興ツーリズム推進ネットワークにも声をかけるべきではないか、といった意見が挙げられており、こうした意見を踏まえ、引き続き、今年度の企画案や来年度以降の取組の検討を進めていく。

(主な意見)

- ・ 昨年の感想にもあったが、来期以降、今回作ったエクスカージョンプログラムが利用されていく大きなキーとして、スルーガイドの育成ということがあるのではないかと考えている。複数、並行してエクスカージョンプログラムを実施していくには対応できるガイドが何名かいないと、1人の人が空いているときしかプログラムが動かないということになってしまう。スルーガイドの育成をどうしていくかということが大事だと感じている。プログラム案の内容については十分だと思う。
- ・ 今回我々がなぜエクスカージョンプログラムに注目しているのかという点について、個性出しをしてもいいのかなと思った。その個性出しの1つがスルーガイド育成の重要性になるのかもしれないが、“スルーガイド”という単語に縛られてほしくないと思う。スルーガイドの有用性の再発見もあるけれども、今までみんな頑張ってきたところでどうやって面としてつながりを持たせるのかというところにもっとしっかりとフォーカスしても良いのではないかと考える。
- ・ 若者を巻き込んだ今回の取組が上手く行くのであれば、例えばこういうプログラムを大学生などにももう少し広げられることも考えられる。せっかく作ってくれたものをどのようにつなげるかが肝要である。この場ではなかなかそこまで落とし込めないと思うが、将来的に、せっかくやってもらうので何らかの形で活かせるような取組につなげられたらいいと思う。
- ・ 第2部については、若者目線でのコンテンツの磨き上げは素晴らしいことだと思うが、若者目線であることが全てだとは思ってほしくはない。今までやってこなかった人たちの柔軟な発想を得たいので、今回若者にお願いしましたというような、若者だからこそできるものは何なのかというところを考えることが重要と考えている。
- ・ 前回の議論の中で“宮城ならでは”という内容をエクスカージョンプログラムに入れた方がいいだろうという意見があったと思う。震災がらみのポイントについては入っていると理解しているが、遠くの人には「観光の現場にも寄りたい」と考えると思われることから、今回のプログラムに東北運輸局も実践の場に参加いただく、あるいはオーディエンスとして来ていただいてもいいのではないかと考えた。運輸局の協力もいただきながら、観光協会も併せて取り組んでいただかないと、なかなか商品化が難しくなっていくのではないかと考える。
- ・ 東北復興ツーリズム推進ネットワークとの関係として、今回のフォーラム等でスルーガイドが重要といった話を発信していく、このことが反映される先がまず旅行会社につながり、コース造成などに知見として活かしていただき、それが1つ1つのコースのセールスにつながることで、東北復興ツーリズム推進ネットワークが共有していくような共有財産に繋がっていく、ということかと認識している。東北復興ツーリズム推進ネットワークとの情報共有、フォーラムへの招待等はしていきたい。

#### 4 閉会

エクスカージョンプログラムの試行に向けて、今回得られた意見を反映しながら、引き続き詳細の検討を進めていくこととした。また、フォーラムの開催についても事務局案への合意が得られたため、開催のための具体的な調整を行っていくこととする。第3回の意見交換会は来年1月に開催することとし、今後事務的な調整を進めていく。

(終了)